

鎌倉市教育委員会 令和2年10月定例会会議録

○日時 令和2年(2020年)10月14日(水)
午前9時30分開会 午前10時40分閉会

○場所 鎌倉市役所本庁舎4階 402会議室

○出席委員 岩岡教育長、齋藤委員、山田委員、下平委員、朝比奈委員

○傍聴者 4人

○本日審議を行った案件

日程1 報告事項

- (1) 教育長報告
- (2) 部長報告
- (3) 課長等報告

ア 鎌倉市教育委員会職員の人事に係る専決処分の報告について

イ 鎌倉市立小・中学校におけるGIGAスクール構想の進捗状況について

ウ 令和2年度(2020年度)GIGAスクール校内研修会について

エ 行事予定

(令和2年(2020年)10月14日～令和2年(2020年)11月30日)

日程2 議案第19号

鎌倉市社会教育委員の委嘱について

日程3 議案第20号

鎌倉市立小・中学校県費負担教職員人事異動方針について

岩岡教育長

定足数に達したので委員会は成立した。これから10月教育委員会定例会を開催する。本日の会議録署名委員を朝比奈委員にお願いする、よろしく願います。本日の議事日程はお手元に配付したとおり。日程に従い議事を進める。本日は赤ちゃんの傍聴もいらっしゃるなので、誰のために仕事をしているかを意識しながら会議を進められればと思っています。

1 報告事項

- (1) 教育長報告

岩岡教育長

9月の定例会以降また社寺や学校の訪問をさせていただいた。社寺訪問では、鶴岡八幡宮の宮司様や各お寺の管長様と意見交換やご挨拶等をさせていただいた。今後社会が大きく変化していく中で、ソサエティ 5.0 といった時代になっていった時に、技術とかそういったものはどんどん平準化されていってしまう中で、固有のストーリーに裏付けられたものとかそういったことや物が価値をどんどん持っていく印象を持っており、鎌倉はそういう固有のストーリーを持った街であるということをもっと強く感じた。この文化財行政、鎌倉市を盛り立てていくということにも使っていければというのを強く感じた次第である。また、着任してから進めてきた学校訪問は全校終了した。ご同行いただいた教育委員の皆さんに感謝する。西鎌倉小学校では、子どものいる時間ずっと一人の先生に張り付いて、学校の状況を一挙手一投足全て見せていただいたのだが、子どもが帰った後の先生の仕事も、まさにそこが本番というところもあるので、そこを見せて欲しいということで全く同じ先生、同じ学年にずっと張り付かせていただき、午後2時半以降の学校の状況も見せていただいた。頭では知っていたものを実際に見ることも非常に重要なことで、実際の先生の動きを簡単に申し上げると、まずその日は6限があったため、2時半になったからといって子どもが帰っているわけではなく、6限の体育が終了した後、3時半ぐらいに帰りの会が終わって子どもたちがようやく帰るということであった。その後、教職員室に戻ったら合同遠足の打ち合わせを1年生の学年とやるということで、非常に決めることが多い中であらかじめアジェンダをしっかりと整理して効率的に色々なことを決めていったのだが、それでも20分ぐらいはかかり、4時ぐらいになってようやく遠足の打ち合わせが終わった。今度は校内研究会で発表する資料の打ち合わせということで、すごくコンパクトに10分間だけ、1・2年生が校外学習の遠足を通じてどういう教育課程を組むかということのアドバイスを6年生の担任として行っていた。その後4時10分から気になるお子さんのケース会議を校長室でやるということで、教育相談のコーディネーターさんや色々な先生と集まって今後の段取りを決めていき、それも25分でコンパクトにしていた。あとは保護者対応ということで保護者に対しての電話をして、ようやく5時から学年会議も始めて今の進捗、教育課程がどこまで進んでいるのか、例えば体育館について、この日は私が体育館を使うからあなたは外を使ってほしいといったことを細かく決めていくわけである。運動会の振り返り等をして、ようやく6時ぐらいから次の日の授業をどうするか、採点するかというのを考えて仕事をされていた。これらの業務が決して非効率にやられているとかITで全て置き換えられるとか、無駄なことということはない中である。非常に効率的に進めてその状況ということである。新しい学習指導要領で1,015時間の授業時数が決められたが、35週でこなすと週29時間になる。週29時間というのは一週間5日間のうち4日間は6時限を置かないといけないといった状況の中で、先生方は非常に苦労して仕事をされていると思う。そこを念頭に置きながら20年先の子どもたちを見据えた教育、刺激を与えるということを考えなくてはいけないということで、そこは常に教育委員として念頭においてワークする形を常に考えていかなければいけないというのが今回の学校訪問を通じて強く感じたところであった。また、今度は社会教育になるが、10月1日からは生涯学習センターの再開館ということで、特にホールの座席数が公民館の全国のガイドラインに基づいて最大限2m間隔を取ると20席強しか確保できないということもあったのだが、市民の皆さんからやはりコロナでずっと我慢してきて、色々な成果の発表会をしっかりと行っていきたいという中で20席強ではなかなかできないということもあったし、公民館のガイドラインを遵守しつつ最大限できるということとで座席数100席強を確保して開館しているので市民の皆さんには是非ご利用いただきたいに思ってい

る。本日 ICT や GIGA スクールの進捗状況の報告等も課長から差し上げる予定なのでよろしくお願ひしたいと思う。少し長くなったが私からは以上である。

(2) 部長報告

特になし

(3) 課長等報告

ア 鎌倉市教育委員会職員の人事に係る専決処分の報告について

岩岡教育長

報告事項ア「鎌倉市教育委員会職員の人事に係る専決処分の報告について」報告をお願ひする。

教育部次長兼教育総務課長

日程 1 報告事項ア「鎌倉市教育委員会職員の人事の専決処分について」報告する。議案集 1 ページを参照願ひたい。令和 2 年（2020 年）10 月 1 日付の人事異動について係長級以上の職員の人事異動であるため、本来であれば教育委員会を開催し協議すべき事項ではあるが教育委員会に提案する時間的余裕がなかったことから鎌倉市教育委員会事務の教育長への委任等に関する規則第 2 条第 2 項に基づき 9 月 30 日に専決処分を行ったため同規則第 5 条の規定により報告を行うものである。人事異動の内容については議案集 2 ページの記載のとおりである。鎌倉生涯学習センターは事業用電気工作物を設置しているため、電気事業法第 43 条 1 項に基づき主任技術者を選任する必要があることから、主任技術者免状の交付を受けている市長部局の職員に兼務を発令し主任技術者として任命していた。この度、生涯学習センターを再オープンするにあたり主任技術者に係る業務を含めた総合管理業務を委託したが、受託業者から、10 月 1 日付けで主任技術者を専任する旨の申請があり、これを承認したことから同日付で兼務の発令を免ずることとしたものである。以上で説明を終わる。

（質問・意見なし）

（報告事項アは了承された）

イ 鎌倉市立小・中学校における GIGA スクール構想の進捗状況について

岩岡教育長

次に報告事項のイ「鎌倉市立小・中学校における GIGA スクール構想の進捗状況の報告について」報告をお願ひする。

教育指導課長

報告事項イ「鎌倉市立小・中学校における GIGA スクール構想の進捗状況について」説明する。議案集その2の1ページから2ページを参照願いたい。多様な子どもを誰一人取り残すことなく一人ひとりに公正に個別最適化され、全ての子どもの資質・能力を確実に育成できるよう鎌倉市でも GIGA スクール構想の実現に向けて教育 ICT 環境の整備に取り組んでいる。これまでの進捗状況について説明する。初めに校内 LAN 工事についてである。校内 LAN 工事については8月中に入札事務を行い、業者を選定、9月には小中学校25校の工事契約が終わった。現在はシステムがスムーズに稼働するかどうかの確認のため、第一中学校を検証校として工事を進めている。ここで得られた検証結果をもとに工事内容を分析し、他校の工事を進めていくことになる。なお、全校の校内 LAN 工事完了は2月末を予定している。次に iPad についてである。児童・生徒用の iPad については一人1台端末とし授業での活用を目指していく。現在、携帯電話回線を利用して活用するタイプのものを約4,000台導入した。これは中学校3年生と2年生、小学校6年生、特別支援学級分として配備している。なお、残りの学年分として予定している約7,300台については、2月末の導入に向けて現在入札事務を進めているところである。また、教師用の iPad として、令和元年度までに導入した iPad 約900台を年度末に再整備し、4月からの運用を予定している。導入する iPad では主にGSuite for educationというクラウドサービスや授業支援アプリを校務や授業で活用していく予定である。また、AI ドリルなどの活用も検討し、新しい教育の創造を目指していく。続いて iPad を充電・保管するための充電キャビネットである。キャビネットは7月中に各校から設置希望場所を聞き、9月初めから小・中学校で順次設置工事を行い、普通教室と特別支援学級の全教室の整備が完了した。その他現在大型モニター導入のため、仕様を検討しているところである。9月の学校教育コンピュータ選定活用委員会では実際にデモ機に触れながら大きさや機能を確認し意見を集約した。このモニターも2月末の整備を目指し、今後入札事務、設置工事を行っていく予定となっている。最後に今年度から新たに ICT 教育推進担当者会を開催する。これは各校の担当者1名ずつの計25名で構成し、学校教育コンピュータ選定・活用委員会等で決定した内容の周知や、ソフトウェアの操作方法等を各学校に伝達していくものである。また、担当者には ICT を用いた授業の参観や講演会への参加をしていただき、そこでの知見を生かし各校で ICT 教育を推進していただくことになる。なお、今後は資料の表にあるように、GIGA スクール構想を進めていく計画となっており、令和3年度の本格運用に向けて令和2年度2月末までに環境整備を終了する予定である。以上で説明を終わる。

(質問・意見)

下平委員

一人一台ということなのであるが、生徒たちは学校に置いておくのではなくて、学校と家庭と持ち歩くことになるのか。

教育指導課長

それについては現在 PC 選定活用委員会等でも検討していただきながら校長会とも調整し、将来的には、家庭にもちゃんと持って帰って家庭学習にも使えるようにしていくが、それにあたっては色々とルールを決めていったり、承諾書を保護者からいただいたりすることも検討していて、それをした上でそのような活用の仕方も考えていこうとしている。

下平委員

そうすると当面は学校に置いたままになるということか。一人ずつ名前を書いて置いておくという状況になるということか。どうしても不具合が生じたり子どもたちが扱うことで壊れたりといったことは考えられるわけだが、そういった場合の予備がすぐに補充出来る体制は整えられているのか伺いたい。

教育指導課長

リースでやっているの、保守もきちんとできるようになっており、故障等があった時も対応できるようになっている。

齋藤委員

先日の学校訪問で様々な教室や授業を拝見した際に、実際に設置されているところの説明を受けたり、見せてくれたりしたのだが、何校かはちゃんと使っていると感じた。ほっとするというか、こうやって子どもは興味をもって、先生たちもとても意欲的に活用しているということである。それから子どもたちも色々やっており、時代の流れの大きさを非常に痛感したところである。先生方の中が大型のモニターを色々説明されている姿もとてもよいと思った。今の説明を伺い、着実に進んでいる世の中をこれから先の子どもたちがどれだけ深く学べるかということが非常に感じられた。だから各校の委員を選んでより広めていく段取り・手筈もなかなかよいと思っているので、私のような人間がいると大変かと思うのだが、興味を持つので、そういうところを大事にして指導していただきたい。ゆくゆくは下平委員のおっしゃるように自由に使えるようになるといいと思う。それまでには色々な課題があり、考えていかなければいけない決まりごとなどもあるとは思っているのだが、そんなことをとても強く感じて嬉しく思っている。よろしく願います。

山田委員

私も学校訪問で実際に活用している学校を見た。それからこういったところにもっと使っていってほしいのではないかとと思うところも体験した。一番思ったのは先生が何か問いかけて、これについてどう思う、あるいはこれが正しいか間違っているかということ聞いた時に、今だどうしても手をあげた子や先生が指した子の意見しか拾い上げられないのだが、それがみんなクリックして賛成反対がすぐにかわったり意見が一覧で出たりするため、色々な意見が拾えたりするようになる。それを瞬時に分析して、先生がもう少し深掘りすることで色々な広がりや時間の効率化が劇的に変わっていくのだろうと実感した。その時にそれをどれだけ使いこなせるかという先生の努力が非常に重要になってきて、その指導というのは教育委員会ですっかりやっていただきたいし、私も自分の子どもたちを見ていると本当に分かるのだが、新しい機種を手にしてもマニュアルなどは全然必要がなくて手にした瞬間から操作ができる。私などは何回読んでもという感じで、そのギャップがおそらく先生と生徒にも起きていると思う。おそらく生徒の方が進化してしまっていて、先生が授業をリードしなければならないのに、逆にそこについていくのが大変だとか、生徒のブレーキをかけるのに苦労したり、というシーンが何となく想像つくので、その辺の世代間ギャップとか IT リテラシーの問題をどのように解決していくか、というのも色々な制度の中で重要なのかと感じている。

朝比奈委員

先般、中学校2校にお邪魔した。その2校に関して言うと、徐々に進んでいくと思うが、まだ校内LANは工事が完了していないのだろうと見受けられた訳である。築年数の古い学校に十分な設備を整備するというのは、すごく大変なことなのではないかと思うし、学校の建物に無線LANがまんべんなく届く設計というの、なかなか苦労されていると思う。使えて当たり前で、これは使えないということが無いようにもちろん色々工夫されていると思うけれども、それぞれの学校に合ったことを、より一層手厚くしていただきたいと思うし、今後整備されたあとでも小さなトラブルはきっとあると思う。リース契約されているので、業者と密に連絡を取られている訳だから、トラブルについては速やかな対応ができるのだと思うのだが、初期導入時はすごく大変なことだと思うので、しっかり取り組んでいただければありがたいと思っている。

岩岡教育長

私自身も各校を回っていると、すでに高学年はiPadが配備されているので、iPadを使って授業をしているケースが少しずつ出てきた。先生によって使い方というのは様々で、一番多いケースであるが、調べ学習から自然に使っている先生方も、「一斉に今から何分間使いましょう」という形ではなくて、本で調べる子どももいればインターネットで調べる子どももいて、自然に使っている姿が非常に印象的であった。もう一步進むと、生徒がiPadを使って物を作る、資料を作ることまでやっている学級もあった。これはまず自己紹介とか自己スピーチをするのに、これまでは紙に書いて、「僕は仮面ライダーが好きです。なぜならこういうことだから。」という説明をしていた訳であるが、その学級はキーノートを使って、もう自分で勝手に作っている。仮面ライダーの画像を引っ張ってきて、好きな音とか音楽とかを自分でこうやって家で録音して、それをぺたっと貼って。そんなことを教えてないのに勝手にやっているということである。すごくいいことだと思ったし、さらに言えば、小学校でプログラミングをやりたくなったのでプログラミングの授業をもうやった先生までいらっしゃるという状況で、こういう形で先生方のいい取り組みが横に共有されるように進んでいくと非常によいのかと思う。iPadを教具だと思ってしまうと先生の能力でキャップがはまってしまうのである。このタイミングで、このように何分間だけ使おうと先生がすべて決めてしまうと子どもたちの能力も伸びていかないところもあるので、一つの文房具として考えて、子どもたちがどんどん使いこなして、頑張っ先生がそれをキャッチアップするという形の方がいいと思っており、このあと研修等のお話もいただくが、動きが加速するように教育委員会としてしっかり取り組んでいきたいと思う。

(報告事項イは了承された)

ウ 令和2年度(2020年度)GIGAスクール校内研修会について

岩岡教育長

それでは報告事項ウ「令和2年度(2020年度)GIGAスクール校内研修会について」報告をお願いします。

教育センター所長

報告事項ウ「令和2年度（2020年度）GIGA スクール校内研修会について」報告する。議案集その2の4ページ、「GIGA スクール校内研修会実施の手引き」を参照願いたい。夏季休業中のコンピュータ研修会に引き続き、11月から教育センターと教育指導課の指導主事が全ての小中学校を訪問して、校務用パソコンやiPadを使った研修会を行う。令和2年度は様々な整備が徐々に進められている最中で、本格的に使用できるのは令和3年度になってからという状況ではあるが、整備ができたところから子どもたちにも使わせていくためには、出来る事を少しずつ始めていく必要があると考えて3年間の継続研修として計画した。各学校ではICT教育推進担当者を中心として、伝達講習等をするなど、学校での推進役をお願いしているところである。今年度は特に不慣れな先生を中心に校内での研修の機会を作ることで、職員同士が声を掛け合い、学校全体でICTを活用していこうという雰囲気が醸成されることが大切だと考えている。GIGA スクール校内研修会のテーマ一覧を参照願いたい。研修時間の設定は1時間を基本とし、学校ごとに研修内容を選んでもらい、内容を絞って実施していく。先生方がいつでも学べるように、研修テーマごとの短いコンテンツも現在作成中である。令和3年度に先生方に一人1台iPadが配られた時にスムーズに活用できるよう、今年度はすべての先生方がナンバー16にある、自分のアカウントでG SUITE活用のためのログインやログアウトが出来ることを目標とし、各学校のニーズに沿った実践的な研修となるよう、学校現場の状況を確認しながら研修を進めてまいる。以上で報告を終わる。

(質問・意見)

下平委員

社会教育の現場では、かなり前からこういう動きが起こっており、私も研修の講師をやっているのでその変化の状況をすごく実感しているのだが、はっきり言うと教育のありようがまったく変わってしまうのではないかと思う。全部が全部ひとまとめにするつもりはないが、今までの教師に求められていた心の機能とまったく違うものが必要になってきて、いわゆる企画演出力であり、自由で柔軟な心であり、それから遊び心がものすごく求められる。でもどちらかと言うと、その遊び心ではなく、社会的な心が求められる人たちが今まで教師という職業に就いている例が非常にあって、技術の前にそういう大変革が起こっている。今まで自分があまり使っていなかった心の機能をもものすごく求められるという、もっと遊び心を開くということを先にやっけないと、逆に精神的についていけない教師を増やしてしまってもすごく怖い気がする。今まではどちらかと言うと一般的な教育指導の場面で正しい事、理屈をしっかりと教えるという技能が求められていた。そこで力を発揮した先生も大勢いた。ところが今度はそれでは使い物にならない場面におそらく直面することになってくるであろう。その辺が違って、それで別に恐れることもないし、逆に言えば今まで自分があんまり動かしてなかった心の部分を機能させていくということも求められるような時代になるという前提をまずしっかり自覚してもらわないと今までの心の状態のままここに入っても付いていけないと思うのがひとつ。それともうひとつ。その学校に応じた教育をと今おっしゃっただけけれども、ひとつの学校の中でも色々な先生がいらっしゃる訳で、こういうことに長けた人もいるだろうし、今言ったような心が備わっている人もいるだろうし、逆に付いていけない人もいるだろうし。こういうことでやっってしまうと、ピントがずれてくるような気がして、あんまりこういうことが得意ではない、抵抗がある人に対してはそういう心構えから基本的な使い方か

ら入らなければいけない。逆に今はこういうことを学生時代からガンガンやっていた若い先生達はもっと上のところに行ってもいいと思う。今までのような学校ごとの教育は、ちょっと無理があるような気がして聞いていたが、いかがか。

教育センター所長

今下平委員がおっしゃる面も確かにそういう部分もあると思いながら、本当にまるっきり学校教育が変わる、それは子どもたちが20年後に社会に出た時の姿を考えながら教育をしていかなければいけない。そのためにこれから導入されるものも使って、どのような教育をしていくことが必要かということについては、色々な部分で急に手探りで始まっているという状況でもある。それで今学校から伝え聞いている話だと、すごく得意な先生とまったくこういうことは嫌だし受けられないしと思っている方と二極化してしまっているという声も聞こえてきている。やはりスタートとしては、「やってみたらこんなことも出来て、子どもたちのこんな表情が見れる」という実感を、今まであまりやったことが無かった苦手な先生に味わっていただくということと、その時に他の先生から「こんなことをやってみたよ」「ちょっと一緒にやってみない」という校内での声かけというのが、なにより支えになってくるかと考えており、その部分を大切にしながら、理想だけではなくて実際に学校に行って研修会を開催しようと思うのは、実際の学校現場の様子をきちんと目で見て確認をしていきながら進めていく必要があるというところで、今回このような形の研修会を計画している。

岩岡教育長

ちょっと補足をさせていただくが、この学校ごとの研修会だけではなくて、教育センターが主催する研修、学校の担当者を集めて行うようなレベルの高い研修みたいなことも、併せて企画していかなくてはいけないと思う。あと学校でやるとちょっとこの星1のやつだけまずやってみようということで、得意な先生にとってはもしかしたらなかなか十分でないものも出てくるかもしれないので、ご自身で勉強できるように、この学習材料をまとめて誰でも見られるような形にもすることで、先生方一人ひとりのスキルのレベルアップというのでも並行して図っていきたいと思っている。

教育センター所長

付け足しをお願いする。この校内研修会は11月から開始する、というお話を先ほどさせていただいたが、それに先立って8月に2回、研修会の集合研修と、それから管理職の方には全員、視聴していただくということで、オンラインで配信する形の研修会を組んだ。その中で今回こちらの助言をしていただいている平井先生という方に、マインドセットを促していくような内容の講演を最初にさせていただいたという経緯もある。

下平委員

本当にそれが大事だと思う。まず人間マインドが変わっていないと、抵抗・防衛が働いたままで、何をやっても上手くいかない、悪循環にはまる可能性があるから、むしろ心の部分が変わってわくわく、うきうきしてくれば、どんな人でも使えるようになってくるとも無いものなので、そこがちゃんと出来ていないとスタート地点でつまづいてあとで苦労する気がする。

山田委員

今、下平委員が挙げられた点にまったく賛同するのであるが、IT と特に英語は先生が本当にプロの域までいこうというのは、正直難しい教科だと思っているとともに、その必要もないと思う。そのようなことを全般に理解しておかなければいけないと思う。実際にそれを操作できる必要はあまり無くて、むしろそれに長けているであろう子どもの意見を上手に取り入れたりとか、授業運営を一流にしていけばいいと思う。表現が適切か分からないが、ファシリテーターとしての能力を高めていくということがこれからの教育ではどの教科でも一番重要なのではないかと思う。先程のように IT を活用した多様な意見を拾い上げたり、そこからディスカッションを深めていったり、その中で最終的にどこに着地するのかという授業運営力を基礎的につけておいて、それで各教科、IT をどのように活用していくか。リストを見るだけでも私も受けてみたいと思うものがたくさんあるので、時すでに遅しだと思うのだが、皆さんも先生方も新しい世界を知れるチャンス、未知なるものに触れるチャンスに恵まれているのだと思う。他の仕事だったらそんな機会は与えられないし、民間であつたらこれは全部自分で時間を作ってどこで勉強すればいいのか、探索しながら自力でやっていかなきゃいけないことを、こうして与えられている訳であるから、感謝して、抵抗のある方にはその辺をよく説得していただいて、どれだけ自分は恵まれた状況にあるのかという幸せな気持ちで取り組んで欲しいと感じる。

齋藤委員

私が話すとちょっと古くなってしまうが、若い頃のガリ版刷りだなんだという時代から、その後、OHP が入り、拡大機が入り、そのような状況の中で、私自身も最初から上手ではなかったが、研究会等の時に、実際の OHP を使う素晴らしさを、日頃の授業の中で、お隣の先生やら管理職やらに相談しながら日々少しずつ学んでいって、素晴らしいと思う授業が出来たのではないかと思っている。しかし、GIGA スクールとなった時に、タブレットやコンピューターでどうこうするというのは、10 人いて 10 人みんな揃ってできる訳ではないと思う。私みたいな人間もいるのではないかと。そうすると逆に興味を持てるポイントの一つ押さえて指導していただければ、すごく興味が湧くのだろうと思う。それでもっと楽しくなって次へ進んでいくというところに成長があると思う。だからそういうきっかけを作っていただいて、よりよい教育ができるようにこれからなっていくのではないかと、あの頃を思い出しながらよいと思った。より先生方も興味を持てると思う。よろしく願います。

朝比奈委員

今まで学校訪問している中で、こういったものを拝見していると、パソコン教室とかに古びたノートパソコンがいっぱい並んでいる、あのパソコンを使った学習ってちゃんと意味を成しているのかなというくらい劇的に変わる。さっき教育長がおっしゃっていたように、まさに文房具。子どもたちはすでに空想の世界、色々映画とかでテクノロジーの世界を映像として見ている。色々なゲームでもそれに親しんでいる。もう当たり前なのだと思う。それを本当に学校で使えるようになると、こんな楽しい事はない。段々その学校の中の環境が空想の世界と同じようになってくるときっとまた学ぶ意欲が変わってきて、すごくよいことに繋がるのではないかと期待する。それには本当に文房具たり得るようにトラブルがあってはいけないので心配するが、環境整備をぜひ整えて、専門知識がなくてもコンセントを繋いだら誰

でも飯が炊ける機械と同じように、何のトラブルもなく扱える。あそこの学校は得意な先生がいるから、あそこだけは進んでいるとかそういう差がないよう、どこの学校でも等しくできるように、なんとか頑張っていたきたいと思う。

岩岡教育長

活発にご意見をいただき感謝する。今、校内研修会テーマ一覧に挙げているのは、まずは使ってみるところに特化して色々な研修を準備しているものであるが、ゆくゆくはディスプレイも入れていき、授業デザイン全体、個別のスキルだけではなく、どのようにディスプレイを使いながら、授業の組み立てをチョーク&トークの時代から変えていくのか。アウトプットの比率を高めていくためにはどうしたらいいのかという少し引いた構造的なところも研修に少しずつ入れていければいいと思っており、心理的抵抗を乗り越えつつ、少しずつ浸透させていければいいと思っている。また是非教育委員の皆さんにもご指導いただければと思う。

(報告事項ウは了承された)

エ 行事予定

岩岡教育長

次に報告事項のエ「行事予定について」である。記載の行事予定について、特に伝えたい行事等があれば、各部お願いしたいと思う。

(質問・意見)

下平委員

大事な就学時の健康診断が予定されているのだが、これは案内を就学児のいる全ての家庭に配って、出席確認等をするわけではないということか。

学務課担当課長

来年4月に小学校入学予定の学年の児童全ての世帯、中には私学だとか海外等へ行かれる方もいらっしゃるかもしれないが、ご案内は全ての世帯の方にお送りする。出席されたかされないかというのは、もちろん現場ではチェックはしているが、これは固い言葉で言えば、私ども教育委員会は法律によって開催しなければならないのだが、保護者は参加しなければならないという義務はない。特に今年については、コロナウイルスの関係があるので、不安な方だとか体調の悪い方が大勢いらっしゃる、そういった中でなかなか行きにくいという方もいらっしゃると思うが、私どももなるべく密を作らないような体制で、医師会とも保護者とも協力しながら、月曜日は深沢小学校、昨日は今泉小学校で開催して残り14校、小学校全16校を会場にして行う予定でいる。参加率についてはまだ2校しかやっていないが、昨年とさほど割合的には変わっていないかと思う。ただ全体的な分母が多少減り気味なので、そこの部分が減ったかということである。

下平委員

さほど減っていないということだったが、まずは感染症にかからないように気をつけなければいけないということと、やはりこの1ヶ月で今度小学校に入ってくる集団の数も、おそらく今年度は減ってしまうことは予想したのだが、子どもたちを見るすごく重要な機会ではあるので、その場でしっかりと生徒たちの様子、それから保護者との関係性を見ていただけると嬉しいと思う。コロナの影響が6ヶ月後ぐらいに心に出て来るけれども、大学病院の精神科からは、コロナ絡みでの心の受診とか入院とかが急増していることも聞いているので、家庭の中で何かそういう不安なことがないかどうかというのを見る、ある意味貴重な機会でもあるので、それも併せて、観察していただけたらと感じる。

学務課担当課長

今の点については、昨年から始めたことなのだが、特に配慮を要するのではないかとと思われるお子さんに対しての改善点という、あおぞら園や、あるいは保育園、幼稚園から、色々とお話をいただいている。実際に対応してご相談をさせていただいているお子さん、保護者の方についてはそれを引き続きやればいいことなのだが、そこで埋もれてしまっている方がいるのではないかとということがあったので、就学時健診をひとつの機会と捉え、保護者の方に事前にアンケートを同封し、お子さんに対して心配ごとがないかを書いていただいて健診の場で回収をし、教育指導課等と連携し、いわゆる漏れていて相談に上がっていないお子さんのいる家庭の中で、不安に思っているお母様お父様に対して私どもからアプローチをし、次に繋げていくという形で昨年からはじめており、今年も引き続きやっている。

山田委員

今おっしゃっていた問診票のことについて、提案しようかと思っていたらすでになさっているとのことで素晴らしいと思うのだが、これは健診にいらした方の分を回収するということがあったが、逆に来てない方はどうされているのかと、それが必要なのではないかと思った。それに付随して、もしもコロナ、その他の都合で来られない方の場合は、オンライン問診というのか、そのようなことができないのか。要は学校に入る前に、なるべくそのお子さんを把握しておくという観点から、何かこのご時勢もあるのでそういった配慮ができないかという提案である。

学務課担当課長

今年度はまだ、数字は出ていないが、就学時健診、発送した件数に対してだいたい97%前後の出席率をいただいております、そういった意味では、中には提出されない方もいらっしゃるが、回収率という点ではほぼ満足できる数字かと思っています。あとはオンライン等、確かにひとつの改善点としてはあるが、教育委員会だけではなくて保健師さんの健診だとか、あるいは保育園、幼稚園等も、あるいは他の機構と連携しながら配慮を要する子どもの早期改善、あるいは素敵な学校生活楽しい学校生活を送れるような環境作りをこれからも進めていきたいと思っています。

(行事予定報告は了承された)

2 議案第 19 号 鎌倉市社会教育第委員の委嘱について

岩岡教育長

それでは日程 2、議案第 19 号「鎌倉市社会教育委員の委嘱について」を議題とする。議案の説明をお願いします。

教育総務課担当課長兼生涯学習センター所長

議案第 19 号「鎌倉市社会教育委員の委嘱について」提案理由を説明する。議案集 6 ページから 7 ページを参照願いたい。社会教育委員は社会教育法及び鎌倉市社会教育委員条例に基づき、定員数 10 名で設置されている。委員については、学校教育の関係者、社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者及び学識経験のある者の中から選出している。この度、令和 2 年 10 月 31 日をもって、任期は満了となることから、新たに委嘱をしようとするものである。任期は令和 2 年 11 月 1 日から令和 4 年 10 月 31 日までとなる。なお、委嘱者については、現社会教育委員全員を引き続き選出している。この件の承認について、今回の教育委員会に議案として提案するものである。

(質問・意見なし)

(採決の結果、議案第 19 号は原案どおり可決された)

3 議案第 20 号 鎌倉市立小・中学校県費負担教職員人事異動方針について

岩岡教育長

それでは日程 3、議案第 20 号「鎌倉市立小・中学校県費負担教職員人事異動方針について」を議題とする。議案の説明をお願いします。

学務課担当課長

議案第 20 号「鎌倉市立小・中学校県費負担教職員人事異動について」議案の説明をする。議案集は 8 ページ、9 ページをご参照願いたい。本件は県費負担教職員の人事異動にかかり、神奈川県教育委員会から示された神奈川県公立学校教職員人事異動方針を受けて、令和 3 年度の教職員人事事務が円滑に行われるよう、基本方針を策定しようとするものである。神奈川県公立学校教職員人事異動方針は、第 1 として適材を適所に配置すること、第 2 として教職員の編成を刷新強化すること、第 3 として全市的、全県の視野に立って、広く人事交流を行うことの 3 点である。これらの基本方針に基づき、鎌倉市では次の 3 点を令和 3 年度における人事異動の重点とした。1、特色ある学校作りを目指した適材適所の配置。2、若手教員導入による編成の刷新。3、他市町及び行政機関との人事交流である。一つ目の特色ある学校づくりを目指した適材適所の配置では各学校が目指す創意工夫を生かした特色ある学校づくりに係り、学校長は自らの経営方針を達成するため、人材の確保を求めるところであるが、教育委員会としては各学校長の要望を叶えるような教職員の異動について極力配慮していきたいと考えている。二つ目の若手教員導入による編成の刷新では、若手教員を軸とした新規採用及び他市町からの転任採用を考えている。新

規採用については令和2年度は小・中学校あわせて8人を配置した。来年度も適切な数の採用を県教育委員会に要望していく。また、他市町からの転任採用によって中間年齢層の教員の確保にも努めてまいりたいと考えている。三つ目の他市町及び行政機関との人事交流では、他市町や行政機関での経験を生かして鎌倉の教育を担える人材を確保するために、各関係機関に積極的に働きかけて人事交流を行いたいと考えている。これらの重点を基に関係機関の積極的な協力のもとに教職員の適正な配置に努めていく。

(質問・意見)

山田委員

正直申し上げて人事異動方針は人事異動の重点とほぼ同じことだと思う。あまり変わらないという印象で、もちろんこの方針をベースに重点を増やしたということなのだが、ある意味当たり前のことと言いか、そもそもそれを定めなければいけないものなのか。それであれば、これはこれでいいのかもしれないのだが、もう少し具体的にしたら方が違いもあるし、適材適所を配置するというのが具体的にどうしたらいいのかという時に、具体性に欠けるのではないかというのが私の印象である。

学務課担当課長

まず、定めなければいけないものかということについては、やはり人事異動を組んでいく部分で重点的に考えることを定めることは必要だと考えている。また、ご指摘のとおり、県の方針と似ているのではないかということについては、山田委員におっしゃっていただいたように、県の方針を基にした上で鎌倉市の人事方針を考えていくため、そこは齟齬があってはいけないので、それを生かしながらやっていくということはある。学校の特色を生かすということについては、鎌倉市内、そんなに大規模ではないのだが、それぞれの地域の特色だとか学校の特色もあるので、学校の経営方針に基づいた適正な人事をしていきたいということはあるが、もう少し具体的に、特に次年度取り組むということを考えることは必要だと思うので、参考にしてまた考えていきたいと思っている。

山田委員

例えば中間管理職の強化とか、人事異動方針をベースに鎌倉市が特に重点的に行わなければならないものが、もう少し明確に、具体的なポイントとして挙がっていると、特に重点的にこれを鎌倉市としてはできるというのがわかりやすいのだが、この方針と重点があまり差異がないというか、もう少し具体的な方がいいのかという印象があり申し上げた。

下平委員

全く同じであるが、この人事異動方針がこの先どういう形で機能していくのか。この教育委員会に発表するためだけの資料なのか。それともこれが県にもいったりもすると考えると、せっかく鎌倉市の人事異動方針であるので、鎌倉市が特に今これだけ変化しようとしているのであるから、特色ある学校作り、特に鎌倉市はこういうことに特化しようとしているから、こういう人材が欲しい等があるとよいのではないか。それから、今こういう比率になっているため、この年代層が欲しいとか、やはりもう少し明

確化したものが入ってこない、これだと本当に上と下が同じで何の説得力もないというか、例年こうだというものになってしまう。さらにこの下に具体的な採用基準とかが出てくるのだろうとは思っているが、それにしても鎌倉市としての来年度の重点で言えば、例えば GIGA スクール構想があれだけ進もうとしているわけであるから、やはりそういうところは特に重視したいとかもう少し出てきてもよいのではないか。

岩岡教育長

県費負担教職員の人事異動方針ということで、任命権者が県ということで市としては人事異動の内申を上げて県に判断をいただくということになる。例えば市として新たにこういう重点をもって中間管理職を雇ってこようとか、人を連れてこようとか、そういったことができるのであればそういった具体的な人事方針を定めてやっていくということはあるのだが、今いらっしゃる先生方をどのように配置していくのかということと、新規採用等をどうしていくのかということが基本的な人事ツールになる中で、今後校長先生から具体的な個人名を挙げながら色々調整をしていくにあたって、そこまで具体的に書けなかったという状況ではある。とは言えもう少し具体的なことが書けないかということは今後議論したいと思うし、最終的にはどういう人事異動の内申を出すかどうかというのは具体的なところまで教育委員会の議題として上がると思うので、その際にご議論できればいいかと思っている。

学務課担当課長

鎌倉市の課題としては中間層、総括教諭ぐらいの 40 代前半の方々の人数についての悩みを抱えているので、どこの市町村もそういう悩みはあるのだが、他市町からそういう経験のある方が鎌倉市に来たいというようなことを言うのであれば積極的に採用したいと思っている。それとやはり教員がもう少し目を開くために色々なところに交流に行くことが非常に大事だろうと考えており、例えば行政機関であったり、県立の養護学校であったり、また管理職の他市町との交流というのを積極的に進めていきたいと考えている。

山田委員

やはり学校訪問している校長先生と色々お話ししていると、その教員の配置というのはすごく重要なものであると思う。もちろん重要なのは分かっているのだが、それをひしひしと感じるというか、そんなこともあるのかと気付かされることも多い。例えば学区内に先生方のお家があり通学路になってしまっていて、常に自分の子どもが通ってしまうかもしれないとか、臨時で凄く学校で活躍して下さってやっとな受かったのだが、配置の関係で他県に流れてしまったとか、本来だったらその方がその学校の中で慣れているのだからそのまま担任になってくれればよかったのにそれが制度的な問題で出来なかったとか。そういう事を伺うとこの適材適所の配置というものが重要であるし、今私が聞いたのは本当に一部であって、多分皆さんの方がお詳しく色々問題点も把握されていると思うのだが、そういったことも少しでも解決できるチャンスなのかと私はこの重点を見て思ったので、もう少しその辺を強調できるように、鎌倉市としてこうしたいというのが現れてもいいのではないのかと思っている。これは駄目とか言っているのではないのだが、今学務課担当課長が言っていた事は具体的だったので、特に中間管理職を増やしたいとか、強化したいとか、教員の視野を広げたいとか、そういったことの方が響くし分かり易いと私

は思った。ただこういう書式とか、こう書くべき形とかがあるのかも知れないが、行政の仕事というのは形式ばってしまって、どちらかと言えば中身より形になりがちなところも私たち民間の目から見るとあるので、せっかくの機会を活用していったらいいのではないかと考えた。

齋藤委員

私は適材適所、見事だなと思う。本当は細かく色々あるのだが書ききれない、書いても引っかかるところがでてしまうかもしれないということもあって、この適材適所ということを書かれているのだと思うし、県の方針を受けて鎌倉市としてこういう形で、そこを重点的に考えて教員配置をしている。例えばここに中間管理職云々とか、管理職云々とは書けないと思う。だから逆にこういう場で意見を申し述べる。そしてそれを受けていただいて、大事な人事をしていただくというのが私は一番いいのかと思う。細かくなり過ぎると厳しいところもあると思うので、やはりこの場で意見を申し上げるというのが一番大事だし、しっかり受け止め下さっていると思うので、そういう形でお願いしたいと考えている。

岩岡教育長

人事に関しては全校で異動方針全てを確実に満たしているというのはなかなか難しいこともあり、ここについては各校の希望を叶えるが、全市的に見たら難しいというものもある中で、全校の重点的な方針というものをあまり具体的に書ききれないというはあるのだが、中間管理職の強化育成等、まさにご指摘いただいたとおり非常に重要な課題だと思うので、そちらもしっかり念頭において今後各校に回って人事のヒアリングをしていきたいと思うし、その他にも、もしこういった点を重点的に意見を聞いてきて欲しいということがあれば、それを踏まえて人事方針等検討していきたいと思うので、よろしく願います。

下平委員

これは鎌倉市の人事の話ではないのだが、GIGA スクール構想が文部科学省で推進される中で、私は教職員に求められる資質がかなり変わってきていると思う。今までの採用方針で県や国がやっていたら、かなりのものが外れてしまうので、根本的に先生に求める資質とか、先生を選ぶ視点とか、試験内容とかが変わってきてなければ、よい人を探りたくても結局難しいということになってしまう。やはり未来を考えるなら、もう国も当然やってくださっているとは思いますが、教育長のお力でその辺から根本的に見直していただきたい。今の教員の採用試験に関して、私も知識はあるが、その選び方のまま来年度の先生をその中から採ろうと思うと、結構やはり厳しいものが生じてくる気がする。

教育部長

色々ご意見等いただき感謝する。最後に私の立場でまとめをさせていただくと、今お話いただいたように先生の関係についてはこれまでも国や県に対して、加配の要望等について機会を捉えながらさせていただいているところがあり、その部分については更に下平委員がおっしゃられるような点も含めて、また鎌倉市として課題として抱えている中間層の人員配置という部分についても取り扱いをさせていただくように、今後も対応していきたいと思っている。今回議案として出させていただいているのは鎌倉市教育委員会が服務監督をしている教職員に対する人事異動であるので、抽象的な部分については今後

検討をさせていただきたいと思うが、服務監督している県費負担教職員に対する人事異動はこういうような方針でさせていただくということで整理をさせていただいて、なおかつ、国県に対する要望等については機会をとらえながら、着実に鎌倉市の教育が進展できるように、取り組みを進めていきたいと思っており、引き続きよろしく願います。

岩岡教育長

教員養成課程そのものとか免許制度の在り方については、文部科学省の中でも課題意識がある。これまで教科教育を中心として組み立ててきた教員養成課程が果たして優秀な教員を育てるのに適切な教育過程となっているだろうか。また、大学での課程を修了した者に免許を授与するというだけでは、元々教員を目指した人しか教職の世界に入ってもらえない。社会人になってから、そこから学部4年間、教職課程を取ろうというのは、なかなか費用が大きいものであるから、社会人から教員にエントリーできるようなラテラルエントリーと言うが、そういったことができるのかとか、そもそも免許更新制の意義はなんだったのだろうかといったところで、今中央教育審議会でも議論が始まっているところである。教科教育を重要視する一定のグループもいる中で、全てがらっと変えるのはなかなか難しいし、教員養成課程を変えたとしても、それを卒業した先生方が出てくるのは4年、5年後ということになるので、それ頼みというわけにはいかないのだが、国の方でも少しずつ制度が変わっていくということもあるので、それまでの間、鎌倉市としてもしっかり授業に対応できる教職員を育てていく。服務監督権者として、そういった義務はあると思うので、しっかり取り組んでいきたいと思う。

(採決の結果、議案第20号は原案どおり可決された)

岩岡教育長

以上で本日の日程は全て終了した。これをもって10月定例会を閉会する。